

# 3分でわかった気になる 「2012年人類滅亡説」

macorp

### 3分でわかった気になる「2012年人類滅亡説」

---

今年も残すところあとわずか。早いもので、2011年の到来はもうすぐです。

そして来年の秋ごろになれば、きっと「あの話題」で世間はもちきりになっていることでしょう。そう、「2012年人類滅亡説」です。

ざっくり言うと、これは「マヤ文明」で使われていた「マヤ暦」が西暦2012年12月に終わってしまう（！）ことから発生した、一種の終末論です。

高度な文明を誇っていたマヤ文明では、異なる周期を持つ複数の暦が使われていました。その中で最も大きなサイクルである、いわゆる「長期暦」のスパンは、なんと約187万年でひと巡りです。スケールでか過ぎです。

そして長期暦の次の終わりが、私たちが今使っているグレゴリオ暦に直すと「2012年12月22日前後」になるというわけなのです。187万年という気が遠くなるようなサイクルのピリオドが、たまたま再来年……そう思うと、確かに説得力がある気がします。

さらに、マヤ文明の世界観では、各サイクルの節目には「破滅と再生」が付きものでした。「長期暦」によれば、今私たちが生きているのは5番目の文明だそうで、過去に4つの文明が栄えては滅んでいったようです。手塚治虫の『火の鳥』みたいな話です。

### 3分でわかった気になる「2012年人類滅亡説」

---

それでも世界中で「2012年に人類は滅亡する」と本気で信じ込んでいる人はかなり多くて、このテーマを題材にした書籍や映画は既に数限りなく存在します。もちろん、フィクションとしても格好の材料。代表的なところでは、ローランド・エメリッヒ監督で、2009年に公開された映画『2012』。この作品は興行的にも大成功したことから、「2012年人類滅亡説」への、世界的な関心の高さがうかがえます。

ですが、かつて『ノストラダムスの大予言』でさんざん踊らされた私たち日本人にとっては、この説はあくまで「ネタ」の範囲を超えない……というのが大多数の感想ではないでしょうか。

であれば、流行モノにはいち早く乗っかって蘊蓄を垂れたり、「地球最後の日、俺と過ごさない？」なんて口説き文句に利用するのがオトナのたしなみというものです。

もちろん、信じる信じないは個人の自由です。マヤ文明について調べれば調べるほど、なんだか本当にそんな気がしてくるのが、今回の滅亡説の特徴でもあります。

いずれにしても、「どうせ2012年に全部終わる！」などと刹那主義に走らないようにしましょう。それでは、ノストラダムスで人生狂っちゃった人と同じになってしまいますから。■